

事務事業 No./名称	■サービス部門 健福-44 食育事業				ザイムスコード及び個別事業名						
	主管課	市民健康課		関連課	産業振興課、保育課、市民活動課他		1282	食育事業			
分野名	健康福祉				1283	食育事業					
目標 (目標値)	食育に関する計画を基に、食育事業を市民や事業者が一体になって推進する。										
人口等の データ	データ区分	21年度	20年度	備考							
	人口	176,669人	176,484人	・各年4月1日 (住民基本台帳)							
	世帯数	78,131世帯	77,430世帯								
運営資源 状況	決算値	1,079千円	2,088千円								
	(国・県)	0千円	0千円					指標と評価			
	(負担金等)	0千円	0千円					指標	食育ボランティア(食育クラブ員)の養成及び強化		
	(一般財源)	1,079千円	2,088千円					評価	○		
	人員配置数	0.8人	0.5人					◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退			
	人件費	7,420千円	4,683千円					目標値		実績値	
	協働の パートナー	市民、事業者、生産者、 市民団体、教育関係団体	市民、事業者、生産者、 市民団体、教育関係団体					20年度		30	40
事務事業 運営経費	総事業費	8,499千円	6,771千円	21年度		40	60				
	市民1人当りの経費	48円	38円	22年度		50					
	対象者1人当りの経費	-	-	23年度		60					
ベンチマーク (県内外自治体や民間団体との比較値)	団体名										
創意・工夫・課題等 改善状況	課題・問題点	(21年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) 生産者・事業者との連携において、具体策が見出せなかった。									
	創意・工夫・課題等の改善点 21年度の成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) 地域で食育を推進する食育ボランティアである「かまくら食育クラブ」が、将来的には地域食育のリーダー的存在になれるよう、また、クラブが自主的な活動や他の団体等との連携が拡大できるように、活動のバックアップに重点を置いた。 会員数が多くなり統制が取りにくくなる中、食育クラブ員がクラブ内外問わず自主的に行動できるようになってきた。									
	未解決の課題・問題点	(21年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) 「食」に関わる個人・団体・生産者・事業者等の連携体制を構築し、食育を推進する事業を展開する必要があります。									
	今後の方針 (対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) 鎌倉食育推進計画を理解し、地域で食育を推進するキーマンとなる食育クラブ員の養成を引き続き行うとともに、そのクラブ員と鎌倉市内で既に「食」について考え活動している多くの団体や事業者等が協力し合い、鎌倉の食育を推進するための連携体制づくりが重要である。 その連携体制を作るためには、まず、鎌倉食育推進計画の知名度を上げ理解してもらう必要があり、再度食育推進計画を市民に周知することが急務である。									
一次評価(課長評価)				二次評価(部長評価)							
A:充実又は拡大 B:現状のまま継続 C:統合又は縮小 D:廃止又は休止 E:事業完了											
評価結果	改善の必要性			評価結果	改善の必要性						
B	有	鎌倉食育推進計画の認知度を上げ、推進計画における行動計画の目標達成に向け事業の充実を図る。		B	有	鎌倉食育推進計画を広く周知し、市内各団体等との連携を拡大し食育推進を図る。					
課長名		市民健康課長 相川 誉夫		部名・部長名		健康福祉部長 石井 和子					